

お家で読もう！

# キッズかわら版

## 北海道にもイノシシがいた？——びっくり縄文人 1

みなさんは本州で畑をあらすイノシシのニュースをみたことがあるかな。でも北海道にイノシシはいないね。どうしてだろう？イノシシは足が短いので、雪が深い北海道では生きていけないんだ。ところが、北海道の

じょうもんじだい いせき  
縄文時代の遺跡では、しばしばイノシシの

ほね つがる  
骨が見つかるよ。縄文時代の人びとは、津軽

かいきょう まるきぶね わた  
海峡を丸木舟で渡り、本州から生きたままイノシシをもちかえっていたんだ。なぜそんなたいへんなことをしていたのかな？

じつは、縄文時代には、イノシシを育てて食べるお祭りが、日本中でおこなわれていた。そこで北海道の人びとも、わざわざ本州からイノシシを運び、このお祭りをしていた、と考えられているよ。縄文時代には、にいがたけん新潟県でとれるヒスイというほうせき宝石が、北海道やおきなわ沖縄まで運ばれていた。縄文人って、ずいぶん活動的だったんだね。



# ことしちゅうもく たんさき ☆今年注目の探査機☆

めいおうせい ねん ちきゅう しゅっぱつ  
冥王星をめざして 2006年に地球を出発したアメリカの

たんさき  
探査機「ニューホライズズ」が、9年半もの旅の末、とう

とう 7月14日に冥王星に到着しました！地球から望遠鏡

で見える冥王星は、とても小さくて拡大しても小さな点にしか

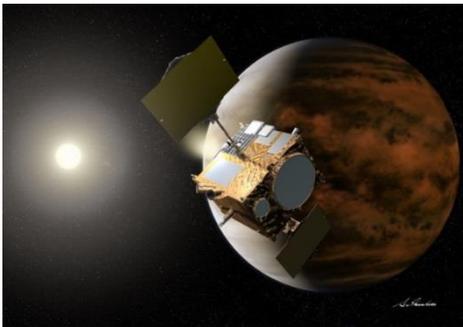
見えませんが、接近中のニューホライズズなら、きっとき

れいな写真を撮って送ってくれるでしょう。まだ誰も見たことがない



ニューホライズズ想像図  
(C) NASA

めいおうせい ひょうめん すがた いま たの  
冥王星の表面はどんな姿をしているのでしょうか？今からとても楽しみです。



にほん たんさき がんば  
日本の探査機も頑張っていますよ。2010年5月に

ちきゅう しゅっぱつ きんせい たんさき  
地球を出発した金星探査機の「あかつき」は、その年

の12月に金星に到着したのですが、なんと、勢い余

って通り過ぎてしまいました。5年後の今年12月に、

あかつき想像図 (C) JAXA/池下章裕

もう一度、金星のそばを通る予定で、今度こそ金星の周りをまわる衛星になるため

げんざいじゅんび わす  
現在準備をすすめています。そして忘れてはいけない、

にほん しょうわくせい たんさき 2ごうき  
日本の小惑星探査機「はやぶさ」の2号機にあたる「は

やぶさ2」が去年の12月に打ち上げられました。火星

と木星の軌道の間にある小惑星をめざして順調に



はやぶさ2想像図 (C) JAXA/池下章裕

と 飛んでいますが、今年の12月にいったん地球のそばまで戻ってきます。地球の

じゅうりょく りょう ねんりょう つか かそく さくせん  
重力を利用して燃料を使わずに加速しようという作戦です。これがうまくいけ

ば、2018年には目的の小惑星に到着、小惑星の表面から砂を取って、2020年

に地球に帰ってくる予定です。どの探査機も大冒険ですね！成果が楽しみです。遠

うちゅう かつやく ちきゅうう たんさき おうえん  
い宇宙で活躍している地球生まれの探査機たち。みんなで応援しようね！

# 発光ダイオード (LED) について

LEDとは発光ダイオード (Light Emitting Diode) の略です。最近では、私たちが

家庭でもLEDの照明器具が使われるようになりました。

LEDのメリットは、電気を光に変換する時に無駄なエネルギーを使わずに済みます。

また、熱をほとんど出さないため、器具へのダメージが少なく、寿命も長いです。



デメリットとしては、白熱電球や蛍光灯と比べてコストが高いことです。

赤色と緑色と青色は光の3原色で、この3色を混ぜると、白を含むほとんどの色が表示できます。難しいといわれていた青色LEDが日本人の研究者によって

開発されたことで、LEDは一気に普及してきました。

LEDは家庭の照明器具以外に、液晶テレビのバックライト、車のヘッドライト、道路の信号機、野外広告の映像などに使われています。

このように、LEDは私たちの身近なところで、さまざまな用途に利用されています。

## 削り氷にあまづら入れて ～平安時代のかき氷～

今から約1,000年前、平安時代の中ごろに書かれた『枕草子』の中に、「削り氷にあまづら入れて新しき金鉢に入れたる。」という一文があります。

「削り氷」は削った氷。「あまづら」とはツタの樹液から作ったシロップのこと。

「削った氷にあまづらをかけて、新しい金属製の器に入れる。」と書かれています。このころの人々が、かき氷を楽しんでいたことが分かります。

さて、当時の人々は、どうやって氷を手に入れていたのでしょうか。

山に囲まれた、夏でも涼しい場所には、氷室が作られていました。氷室は、冬の間作った氷を保存しておく穴のこと。底にはカヤなどの枝や葉をしき、板を乗せた上に氷を置きます。さらにその上から板を乗せて、草や土でおおいました。そして夏になると氷を運び出したそうです。

今では簡単に手に入る氷ですが、当時はとても貴重な品物。氷を食べたり使ったりできたのは、ほんの一部の人々だけでした。

夏休み博物館体験のお知らせ

「むかしのこども・むかしのおやつ」

昭和20～40年代の子ども達のくらしとあそびを紹介！

7月26日（日）10:00～12:00

20名募集（小学3年生以下の子は保護者と来てください）

7月17日から受付開始。博物館に電話してね。

発行日 平成27年7月15日

編集 旭川市教育委員会 社会教育部 旭川市科学館・旭川市博物館

旭川市科学館 〒078-8391 旭川市宮前1条3丁目3番32号

TEL 0166-31-3186 FAX.0166-31-3310

<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/kagakukan/>

旭川市博物館 〒070-8003 旭川市神楽3条7丁目（旭川市大雪クリスタルホール内）

TEL 0166-69-2004 FAX.0166-69-2001

<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/museum/>